

令和2年度 卒業式特別号 令和3年3月13日(土)	富士見中学校だより 希望かがやく	川崎市立 富士見中学校 Tel 242 - 0931
---------------------------------	----------------------------	----------------------------------

第72回 卒業式 式辞 (概要)

令和3年3月13日
校長 矢嶋 充夫

皆さんの成長の一つとして2年生の修学旅行が挙げられます。皆さんの行動は、正に団結の証であり、自分と仲間を大切にしたい証でした。いつもの富士見中の生活同様、旅館や拝観先の入り口で一礼をして入ったこと。旅館では、スリッパが一足たりとも乱れなかったこと。出し物に全員が大笑いし、心の絆が強く結ばれた修学旅行になりました。「きっとこの学年は、富士見中の最高の学年になる。」校長としてそう確信していました。

しかし、3年生になって、新型コロナウイルス感染症の危機に直面することになりました。東京オリンピック、パラリンピックの開催が延期され、長い臨時休業、分散登校を経て、やっと登校したら、活動もできないまま部活動の引退。大幅に実施内容を縮減した体育祭、応援合戦、マスクをして、自由曲1曲の合唱祭。給食は、前を向いて黙って食べる、寒くとも換気のために窓を開けて授業を受ける、なによりも友達と距離を取らなければならない。さぞ苦しかったでしょう。よく我慢をし、乗り越えましたね。

緊急事態宣言の中、休業を余儀なくされたデパートの広告です。その広告には2020年の売り上げの合計が記載された1枚のレシートが掲載されています。「スーツケース 662個 口紅 76,175本 浴衣 475着 ハイヒール 1,001足 ベビーギフト 566個」。662人の人がいつか自由に旅をするためのスーツケース、76175人に人がマスクの下でもおしゃべりをするための口紅、夏祭りは中止になったけど475人がいつか着るための浴衣、1001人の人が颯爽と街を歩くためのハイヒール、そして、生まれてくる556人の尊い命のための贈り物。この百貨店の広告は「レシートは、希望のリストになった」と結んでいます。

さて、3年間の学校生活は、皆さんにとって何だったのでしょうか。ある時は、友達や先生と笑い、また、ある時は、悔しい思いをし、1人で泣いたこともあったでしょう。そしてコロナ禍の中で思うようにできない。内心、感染への恐れと闘いながら笑顔でいることで自分をゆがめているような苦しさを感じたかもしれない。スーツケース、口紅、浴衣、ハイヒール、そしてベビーギフト。これらは、コロナ禍の中であって、思い切り自由に過ごしたいという希望の現れです。正に皆さんの過ごした1日1日と同じ価値を持ちます。つまり富士見中での3年間は、これからを過ごすための「誇り」と「希望」の源泉なのです。富士見中生として誇りをもって歩むことを切に願います。

さあ、巣立ちの時です。昨年同様、これからの時代を生き抜いていく、ここに巣立つ卒業生の誰かに求めたい。

「誰か、コロナをやっつけてくれませんか。誰か、もっとみんなが安心して暮らせるようにしてくれませんか。誰か、みんなをもっともっと幸せにしてくれませんか。」

富士見中を巣立つ皆さんならできるはずです。自分に誇りをもって歩いて下さい。

卒業おめでとうございます。

富士見魂 5つの誇り

- 1 あいさつと感謝を忘れません。
- 2 授業を大切にします。
- 3 いじめは許しません。
- 4 熱いチームワークを大切にします。
- 5 清掃を一生懸命します。

117名の卒業生の幸せを願います。一人ひとりが粘り強く前を向いて、誇りをもって歩いてください。卒業おめでとう！！

